

岩野泡鳴 いわたけ

詩人、小説家、評論家。明治六年一月、二十日兵庫縣

生れ、大正九年五月九日没（二七三―一九三〇）。本名美齋。よしあ筆名はつゆひ、

岩の美齋、岩野、岩野泡、岩野生、岩野白濁、泡鳴子、落夕生、阿波

鳴門左衛門等。専修學校、東北學院等へ學ぶ。雜誌『明星』同人を経て

『桐馬御風等』と『百合合』を創刊。詩から小説に移りて自然主義作家

の地位を確せし。評論では生活と文藝の一元化、創作的生命哲學、一

元描寫論を展開。一方女性問題をも世を騒がせた。『泡鳴全集』全十

八巻（大正十年―十一年國民圖書株式會社）刊。

著譯書『公用會話』（内題「公用會話註釋」本名、編、明治二十五年

四月十一日警鐘社書店）、『夕潮』（内題「ゆきのは」明治二十七年

十一月五日日高有倫堂）、新體『悲戀悲歌』（明治二十八年六月十日

日高有倫堂）、『あやめ會詩集』（合著、第一『あやめ草』明治二十

九年六月一日如山堂書店、第二『豐旗雲』十一月十九日左久良書房）、

『神秘的半獸主義』（明治二十九年八月二十五日左久良書房）、『泡

鳴詩集』（岩野深齋名、明治二十九年十一月二十五日金屋文淵堂）、

『新體詩の作法』（明治四十年十一月二十二日修文館「作法叢書」）、

『泡鳴詩集』（附録・新體詩年表）』（合著・吉野臥城編、明治四十一年一月、千七百七十四文堂）、

『新自然主義』（明治四十一年十月、千七百七十四文堂）、註『近代世英文學』（共譯・高橋五郎編、明治四十一年

四月、千五百有朋堂書店）、『耽溺』（明治四十二年五月一日易風社）、

『發展』（明治四十五年七月一日實業之世界社）、

『ヤサ シモン』著『表象派の



文學運動』（譯、大正二年十月、千八百新潮社）、『炭屋の船』（大

正二年十一月二十日岡村盛花堂「文藝叢書」(一)、「現代文章作法」(合

著、大正四年一月五日、再刊・五月二十日忠誠堂出版部)、「近代生活

の解剖」(大正四年一月十日石川文藝堂)、「耽溺」(大正四年五月

十四日新潮社「代表的各作選集」)、「男女之貞操問題(僕の別居專

實之戀愛論)」(大正四年十月五日新潮社)、「日本詩集・大正七年

版」(合著・詩話會編、大正八年四月十日新潮社)、「泡鳴五部作叢

書」(第一編『放浪』大正八年七月二十二日、第二編『斷橋』九月一

十八日、第三編『憑き物』九年五月二十日、第四編『發展』七月八日

新潮社)、「燃えたる橋柱」(大正九年一月十五日日本評論社出版部)、「

女の執着(附録沼澤録)」(大正九年九月一日日本評論社出版部)、「

批判的學の建設」(大正九年十月五日隆文館株式會社)、「現代詩

人全集・第二卷浦原 有樹集 岩野 泡鳴集 野口米次郎集」(昭和五年七月十日新潮社)、「現

代詩人全集・6「岩野泡鳴集」(昭和十年十月一日新潮社)、「新潮文

庫」(一)、「耽溺」(昭和十一年七月十五日春陽堂書店「春陽堂文庫」)、「

耽溺」(昭和十二年七月一日新潮社「新潮文庫」)、「毒藥を飲む

女」(昭和十二年八月二十五日青磁社「青磁選書」)、「正京白鳥「岩

野泡鳴論」(附載)、「耽溺」(大月隆洋解説、昭和十二年十二月十

日利根屋書店)、「岩野泡鳴選集・第一卷」(昭和十二年二月一日

二銀書林)、「耽溺」(昭和十二年七月五日岩波書店「岩波文庫」)、「

斷橋」(昭和二十九年八月二十五日岩波書店「岩波文庫」)、「泡

鳴五部作」全(冊)(上卷(發展・毒藥を飲む女)、下卷(放浪・斷橋

・憑き物)、「昭和二十年七月二十五日新潮社「新潮文庫」)、「岩野

泡鳴 秋江集」(平野謙編、昭和二十九年八月二十日新潮社「日本文學全

集」等。

文獻、舟橋聖一著『岩野泡鳴傳』全一冊（上卷・昭和十二年七月）百
下卷。十、二月、千代書木書店）、大久保典夫著『岩野泡鳴』（昭和二
十八年十一月、千代南北社）『現代評論選書』）、小島信夫著『私の作
家評伝・II―四迷・泡鳴・蘆子・花袋・葎花・啄木』（昭和四十七年
十月、千代新潮社）『新潮選書』）、紅野敏郎吉田公字編『岩野泡鳴書目』（昭
和五十四年十月、十五、月朗治書院）『近代文学資料』）等。